

第 32 回 木津川上流河川環境研究会

議事概要

【開催概要】

開催日時： 平成 30 年 3 月 19 日(月曜日) 13:30～16:00

開催場所： セントノーム 2階 平安東の間

【出席者】

委員： 6名（角座長、海老瀬委員、羽多野委員、藤村委員、堀委員、松井委員）

事務局： 木津川上流河川事務所 8名（山本所長、小寺副所長、北垣調査課長、倉本管理課長、細川工務課長、堀井計画係長、松窪流域調整係長）

オブザーバー： 水資源機構関西・吉野川支社 3名（大原調整役、松尾施設管理課長、富安事業課課長補佐）

水資源機構木津川ダム総合管理所 2名（染谷所長、丹羽管理課長、鈴木）

水資源機構川上ダム建設所 1名（藤岡）

【議事次第】

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

(1) 木津川上流河川環境研究会について

- ・前回 第 31 回研究会等指摘対応の確認

(2) 堰・魚道 連続性再生検討

- ・縦断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針
- ・横断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針

(3) 河道内樹林管理検討

- ・本年度の調査・検討結果と今後の方針

(4) 水量・水質検討について

- ・本年度の調査・検討結果と今後の方針

(5) 河川工事実施に係る環境保全への助言について

- ・モニタリング調査結果について
- ・本年度追加工事について

(6) 土砂管理検討について

- ・水資源機構(木津川上流ダム群)における土砂管理に関する取組みについて
- ・木津川上流における土砂管理に関する取組みについて

(7) その他

- ・名張川ワークショップ(黒田地区における川づくり整備プラン)について
- ・次年度の予定について

4. 閉会

【配付資料】

- ◆議事次第 / 席次表 / 木津川上流河川環境研究会 設立趣意・規約
- ◆資料1：第31回木津川上流河川環境研究会 指摘対応
- ◆資料2-1：木津川上流 縦断連続性再生 堰・魚道 簡易改良等 検討 資料
- ◆資料2-2：上野遊水地 横断連続性再生検討 資料
- ◆資料3：河道内樹林管理検討 資料
- ◆資料4-1：今年度の検討について
- ◆資料4-2：水環境上の課題と評価についての検討
- ◆資料4-3：水質見える化マップのホームページ紹介
- ◆資料5：河川工事実施に係る環境保全への助言について
- ◆資料6-1：水資源機構(木津川上流ダム群)における土砂管理に関する取組みについて
- ◆資料6-2：木津川上流における土砂管理に関する取組みについて
- ◆資料7：名張川ワークショップ(黒田地区における川づくり整備プラン)について

【審議内容】

(1) 木津川上流河川環境研究会について

事務局より、木津川上流河川環境研究会における検討経緯、および前回研究会(第31回)及び各ワーキンググループにおける指摘の確認と、その対応方針について説明を行った。

(2) 堰・魚道 連続性再生検討について

1) 縦断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針について

事務局より、縦断連続性再生検討に関するこれまでの検討結果と本年度調査・検討方針、調査結果速報について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・コクチバスの対策については、関係機関と連携しながら対策をとっていくことが必要である。

〈松井委員〉

⇒淀川河川事務所と連携を取りながら、対策について検討していきたい。〈事務局〉

- ・ダム管理者としてはどのように考えているか。〈角座長〉

⇒ダム管理者としての対応は難しいことから、県や市に情報を提供しながら対応について検討していく必要があると考えている。〈水機構木津川ダム総管〉

- ・外来種対策について活動をしている地域もあるため、いろいろなところに情報を流していくことが必要である。〈松井委員〉また、情報共有する場をつくっていくことも必要である。〈角座長〉

- ・淀川の環境委員会では、まだ課題としてはあがっていないが、近いうちに課題となると考えている。〈松井委員〉

- ・環境学習会は夏休みに開催できるように、自治体等交えながら調整してほしい。〈角座長〉

- ・子供たちを集める場合は、夏休みの宿題に活用できる8月の前半が有効である。〈堀委員〉

2) 横断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針について

事務局より、横断連続性再生検討に関するこれまでの検討結果と本年度調査・検討方針、調査結果速報について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

・イベント関係については、以前に比べると地域が協力的になった印象を受ける。今後も協力的な人を見つけながら進めていって欲しい。〈松井委員〉

・小田川魚道については、ゴミを水面から取り除けるような仕組みを考えてみてはどうか。〈藤村委員〉

⇒現在、対策を試験中であるため、ご意見を参考にしながら、今後の検討を進めていきたい。〈事務局〉

(3) 河道内樹林管理検討について

事務局より、河道内樹林管理検討に関する本年度の調査・検討結果と今後の方針について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

・宇陀川の樹林伐採及び掘削の範囲は河道内のどれくらいの範囲で行っているのか。メダケは水に弱いので、掘削も行っているようであれば、クリーク状に流路をかえることによって、メダケの再繁茂を抑制できるのではないかと。〈藤村委員〉

⇒今後同様に掘削を伴う場合は、流路を開削して再繁茂を抑制できないか今後検討する。〈事務局〉

(4) 河川ダム 水量・水質検討について

事務局より、水量・水質検討に関するこれまでの検討結果と本年度検討方針について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

・伊賀市では下水道普及が計画されていない状況で、まだまだ単独浄化槽の処理人口が多い現状である。建て直し時期等の更新時に、単独浄化槽を合併浄化槽に切り替えることが有効な対策である。伊賀市に、汚濁改善効果を伝えて働きかけてことが効果的である。〈海老瀬委員〉

⇒指摘意見を参考に、情報提供を継続実施して、汚濁負荷低減方策を働きかけていきたい。〈事務局〉

・月1回平水時の定期水質調査では三川比較で、木津川の水質は改善傾向にあると見えるが、頻度を上げて降雨時の水質データを調査した際には、木津川の水質は三川の水質比較ではまだ、良好とは言えない状況であった。平水時だけの水質で改善状況を評価するのは不十分である。〈海老瀬委員〉

・平成25年の流量データを見直すこと。〈海老瀬委員〉

⇒確認する。〈事務局〉

(5) 河川工事実施に係る環境保全への助言について

事務局より、河川工事実施に係る環境保全への助言について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

1) モニタリング調査結果について

・タコノアシは右岸の既モニタリング箇所では消失し、昨年度から本年度掘削箇所では新たに発生しているようで、発生と消失を繰り返す生態の植物と理解した。〈角座長〉

2) モニタリング調査結果について

・今回報告の内容については、各委員に現地を見ていただいているか。〈角座長〉

⇒一部の箇所は、現地視察時にみているが、全て見て頂いていないので、各委員に個別に確認していただく予定とする。〈事務局〉

(6) 土砂管理検討について

1) 木津川上流における土砂管理に関する取組みについて

事務局より、土砂管理に関する取組みについて説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・資料 6-2 の右図にある枠組みでいうと、この淀川水系土砂管理検討委員会（以下、「淀川水系委員会」）の結果をこの研究会で報告するとともに、この研究会での議論を淀川水系委員会にフィードバックすることが重要である。特に樹林の話は土砂と相互に関係する。（角座長）
- ・名張川上流の三ダムと高山ダムの区間（名張市付近）は河川改修もあるようなので、土砂をどう捉えるかが重要であり、この研究会でもしっかり議論する必要がある。また、高山ダム、布目ダムの下流の本川も考える必要がある。川上ダム下流は、図示した区間より下流まで検討を行っていたと思うので、区間に中抜けが生じないように木津川上流でも検討が必要である。各区間からどういう土砂が流れていくか、境界条件をどう決めて行くかが課題である。（角座長）
- ・土砂は上流から下流に流れるものであり連続的な区間として評価する必要があり、管理区間の違いで区分すべきものでもない。直轄区間だけでなく上流も含めた検討も必要である。（角座長）

2) 水資源機構（木津川上流ダム群）における土砂管理に関する取組みについて

水資源機構より木津川上流ダム分における土砂管理に関する取組みについて説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・当面高山ダムに集中して長寿命化対策を進めていくことになるかと報告を受けたが、河道内で土砂収支を図る場合、期待出来る効果をどのように研究会で評価するか。名張市周辺の区間と高山ダムの下流区間の範囲になるが、高山ダムでどのように土砂を受け入れ、出すことになるかが重要な観点である。（角座長）
- ・流域の地質状況は重要であり、森林の荒廃と土砂の流出の関係は地質にも依存する（藤村委員）。
- ・流域でみると、木津川上流では砂防もあるため、砂防の取組みがダムの堆砂ともリンクする。さらに上流は森林部局にも関係するため、木津上全体で土砂生産をどうするか、木津上だけでは解決しないこともある。このように淀川水系委員会では全体を網羅して検討できないので、この研究会で検討する必要があると考えている。（角座長）
- ・土砂管理については、下流に還元させる考え方で良いか。（藤村委員）
⇒土砂の処分の方法としては、ストックヤードの土砂受入地への搬入、下流への還元、有効利用がある。下流に還元する量がどれくらいかを検討しているところである。（水資源機構）
- ・資料 6-2 の p19 にある課題②について「貯水池上流端で積極的に土砂を捕捉すること」とあるが、どのようなことか。（松井委員）
⇒水位を低下させ掘削することだけでは、掘削量が少なく、土砂ポケット等の土砂捕捉施設により貯水池に流入前の土砂を捕捉し、効率的に掘削を行えることを検討している。水深が深い場所に堆砂した場合、浚渫による工法となり高コストとなる。（水資源機構）
- ・普通のダムは粗粒分が上流に貯まるため、水位を下げると粗粒分が残り掘削しやすいが、高山ダムでは上流に三ダムがあるため、水位を下げたとき、粗粒分が流入せず細粒分が深いところにたまりやすく、捕捉施設があるとより効率的に掘削可能であると理解している。（角座長）

(7) その他

事務局より、名張川ワークショップについて紹介を行った。

また、次年度の予定として、事務局より、説明を行った。次回開催は本年度の 8 月より早めて 6 月の開催を目途に、早々に日程調整を行う予定である。

以 上